

神経痛

監修／島根県斐川中央クリニック 院長 下手 公一

症状と所見

処方

比較的体力がある（実証）

口渇、浮腫
尿量減少、関節痛

越婢加朮湯

体力は中程度（中間証）

冷えのぼせ、下腹部の圧痛
肩こり

桂枝茯苓丸

筋肉痛、関節痛、皮膚乾燥

麻杏薏甘湯

関節腫脹、しびれ、運動障害

薏苡仁湯

体力がない（虚証）

四肢や下腹部の冷え
しもやけ、腰痛

当帰四逆加呉茱萸生姜湯

関節変形・腫脹、筋萎縮

桂芍知母湯

冷えを伴う痛み、関節変形のない痛み

桂枝加苓朮附湯

腰痛、皮膚乾燥 → 夜間頻尿、口渇

八味地黄丸

→ 下腹部の圧痛

疎経活血湯

腰と下肢の冷え、多尿

苓姜朮甘湯



1point ワンポイント・アドバイス

寒い時期に症状が出現することが多い神経痛ですが、原因は明らかではなく、継続的な軽い痛みから強い瞬間的な痛みまで広い病態があります。西洋医学ではカルバマゼピン、メコバラミン、ロキソプロフェン等の薬物療法を第一選択とし、必要に応じて、手術や神経ブロック等の外科的な処置を行うこともあります。一方、東洋医学では神経痛は「痺症」の一種とされ、外因的な毒邪の侵入、もしくは内因的な肝胆の気血両虚、瘀血による症状と捉えて漢方薬が処方されます。